

収量・品質の確保は秋の土づくりから！ 肥料費の削減にも！！

土壌分析結果では、土壌中の腐植、置換性加里、有効態ケイ酸が減少傾向となっており、特に有効態ケイ酸は目標値以下となっています。ケイ酸を含むパワーシリカを秋に必ず施用しましょう。

表1 土壌分析結果の推移(城端・井口地区平均)

	腐植 (%)	有効態リン酸 (mg/100g)	置換性加里 (mg/100g)	有効態ケイ酸 (mg/100g)	pH
R4	4.3	31.8	30.3	35.9	6.0
H30	4.7	25.7	36.9	37.7	6.1
H24	5.2	27.1	38.2	48.5	6.2
目標値※	3~5	15mg	20mg	40mg	6.0

※洪積粘質:リン酸吸収係数1000~1500の目標値(H24当時の目標値から変更されている)

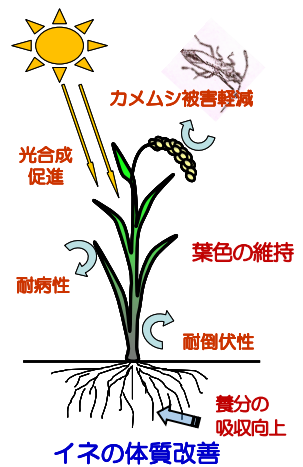


図 ケイ酸の効果

1 土壌改良資材の施用

資材名	施用量(10a当たり)
パワーシリカ	100kg

※パワーシリカを施用した場合は、中間追肥の「エスアイ加里特号」(6月)の施用は不要です。

2 有機物の施用

- ・稲わらと籾がらは焼却せずにすき込みましょう。
- ・完熟堆肥や発酵ケイフンを積極的に施用しましょう。

堆肥名	秋の施用量(10a当たり)
JAなんと完熟堆肥	2m ³ (1,140kg)
発酵ケイフン	150kg

3 地力増進作物の作付け

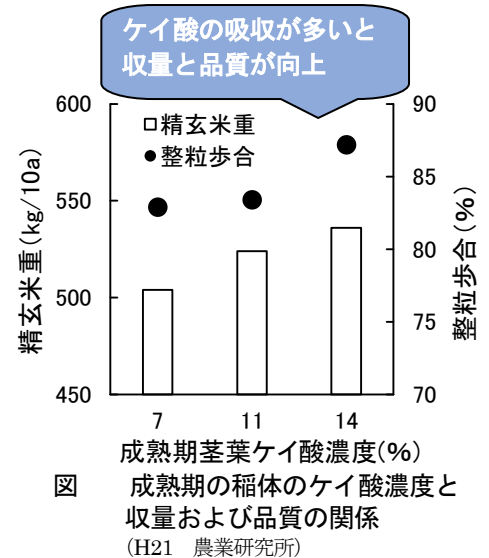
- ・堆肥を施用しない場合は、水稻跡にヘアリーベッチ等の地力増進作物を作付けし、土壌の腐植を高めましょう。(営農のてびき P86・87 参照)。

4 秋耕の確実な実施

- ・土壌改良資材や堆肥の施用後は気温が高いうちに秋耕をしましょう。
- ・秋耕と春耕の2回掛けで、15cm以上の作土深を確保しましょう。
- ・「ひこばえ」は稲穂が稔る前にすき込み、翌年の漏生稲を防ぎましょう。

5 排水対策の実施

- ・秋耕後は、排水溝を設置するなど排水対策を行い、水はけを良くし、稲わらの腐熟を促しましょう。



ヘアリーベッチの作付けにより、後作の大豆の基肥を削減できます。ただし、地力増進作物の種子量に限りがありますので事前に相談ください。

JAなんとメールマガジンの登録はこちらから↓



☆「秋の土づくり運動」9月15日~11月15日

※詳細については【営農のてびき】を参照して下さい。

お問い合わせは、JAなんと営農部(62-0261)または砺波農林振興センター(32-8147)へ